

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホームやまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖淵48-1 (電話) 0996-63-4176
自己評価作成日	令和3年10月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北薩地方に位置する当ホームは、川に面した県道447を挟んでおり、1階にはコンビニエンスストアが入っている3階建ての施設である。1階から3階に介護付有料老人ホームも併設されていて、2階の一部が当ホームである。川を渡ると商店街があり、市役所、教育機関も近隣に数多く存在しており1階にあるコンビニエンスストアは併設施設を通り外に出ることなく買い物に行けるという利便性があり、入居者は欲しいものを自分で見て購入できる。駐車場も1階と2階の2箇所があり、来客用の駐車場も完備している。1階駐車場横には毎年さつま芋を職員が植え秋の収穫の際は入居者と一緒にさつま芋堀を行い焼き芋を作ったり、日々のおやつ作りや食事に使い入居者も楽しみにされている。花壇も数箇所あり、散歩される入居者の目を楽しませている。職員は一人から二人の担当を持ちその職員を中心にその方にあった介護の方法を常に模索している。新型コロナウイルス対策の長期化により併設施設との合同行事は少なくなったが、少人数での楽しみも増えた。

当ホームは、出水駅、出水市役所などが近隣にあり、米ノ津川が流れる国道の沿線沿いに位置しているため利便性に優れアクセスが良好である。母体法人が運営する介護付有料老人ホーム「ことぶき」の2階フロアに1ユニット配置されている。

ホームの理念は、「一緒にふれあい、笑顔のある家庭的な暮らし」である。理念や接遇目標は、朝礼で唱和され可能な限り利用者と職員がともに調理や掃除などの生活活動をおこない、利用者の希望や意向を確認しながら家庭的な生活が送れるよう支援している。毎年、接遇委員会を開催して、有料老人ホームとともに接遇目標を作成し、目標達成に向けて職員全員で取り組んでいる。

食事は、能力に応じた手伝いもあり、菜園で収穫した野菜を活用しておやつ作りをしたり、感染対策をしっかりとおこない職員と一緒に食卓を囲んでいる。

重度化や終末期に向けた方針の共有については、契約時に、「急変時や終末期における医療等に関する意思確認書」を作成、利用者や家族の医療や重度化等に関する意向確認を文書で交わしており、「医療連携体制同意書」や「看取りに関する指針」にて説明と同意を得ている。ホームは、看取りの経験も数多く、重度化し看取りに至るプロセスのなか主治医を基点として本人、家族への説明と同意を得て納得のいく最期を迎えられるようチームケアにて取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者と職員が一緒に洗濯物を干し、取り込み、たたみ、片付けるまでを行っている。可能な入居者と掃除を行い、家庭的な生活を送れるように取り組んでいる	開設当初からの理念であり、朝礼時ホームの理念と法人の理念を唱和している。残存機能を活かし居室のモップ掛けが日課の方もおられ、洗濯物を干し、取り込む、たたむといった一連の行為も職員とともにおこない笑顔のある家庭的な暮らしを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中自治会行事に参加することが困難であり交流出来ていない。地域の自治会には加入継続である。	地域の自治会に加入し、清掃活動や地域行事に参加し近隣地域からの差し入れを頂戴したり、中学生の職場体験、地域ボランティアの受け入れなどをおこない交流活動をしていたが、現在はコロナ禍に配慮し自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍の中運営推進会議をレジュメ送付にて行う際、自治会長、民生員、市職員へも送付し意見を頂いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中文書にて報告、意見の収集を行いサービスの向上につなげている。	管理者は、利用者情報や支援状況などを文書化し、議事録にまとめ行政や会議メンバーに送り意見書を頂戴して職員全員で事業所の課題などやサービスの質の向上などについて話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは主に電話連絡となっている。手続きへの相談にも快く対応してもらっている。</p>	<p>市担当者とは、電話での連絡が増えたが、窓口にて直接面談し事業所運営や介護保険関係手続き、感染症対策など多岐に渡り相談し指導や助言を頂戴し相互に協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>安全対策・拘束廃止委員会を毎月開催し、併設事業所と共に拘束をしない取り組みを行っている。</p>	<p>「身体拘束等の適正化に関する指針」があり、安全対策・拘束廃止委員会を3施設合同で毎月開催している。また、年間計画を作成し勉強会をおこない、部署会議などで情報共有を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>併設事業所と合同で定期的に行われる委員会の中で学習し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>学習会の中で学習に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、入居者や家族の不安や質問にその都度答えている。電話による質問にも丁寧に答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染対策の中、運営推進会議の開催が困難であった為、郵送にて現状のお知らせと意見・要望を出していただけるようにした。	コロナ禍の感染予防に努め家族との面会には窓越でおこなっているが、請求書に担当者からの手紙やホーム便りを添えて利用者の生活の様子などを伝え電話で意見や要望を聞き取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回部署会議を開催し、意見や提案を聞いている。	管理者は、職員との関係性を良好に保ち意見が出しやすく相談しやすい職員関係を築いている。職員は、年度末に、「個人評価シート」を提出して施設長と面談している。毎月、部署会議に参加し意見や提案を出して業務改善やサービス向上などに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回「個人評価シート」を提出してもらっている。その中で個々の目標も記入してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍の中法人内外での研修が中止となった。ワクチン接種後は法人外での研修も可能となり参加した職員からの伝達講習により学習していく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の中同業者との交流は困難であった。電話による情報交換はおこなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安なことや要望をしっかりと傾聴し、安心して生活できる環境を整え信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聞き取りを行い、サービス開始時には説明している。電話による不安にも答え安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前聞き取りとサービス利用開始時の状態を見て必要な支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る家事は職員と共にやっている。また残存機能はいかした介護を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い入居者の家族に定期的に家族から電話して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中外出が難しい状況であった。施設内ばかりにならないようにドライブに出掛けたり、施設外周の散歩に出た。	感染予防を行った上で、近隣への散歩やドライブをして地域へ外出している。必要な方には家族の方から電話をかけてもらったり、馴染みの訪問美容を利用して。職員は、手紙や年賀状の代筆や代読をおこない関係性が途切れることがないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中過ごされるソファ席、食事の際のテーブル席でも職員が間に入り良好な関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればその都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを聞き取りケアに取り入れている。聞き取り困難な入居者の思いについても表情や反応を見て対応している。	利用者の思いや望む暮らしについては、入居前の基本情報（生活歴）や家族からの情報などを参考にしながら検討したり、言葉に出せない方は、表情やしぐさなどから思いを汲み取り意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りにより情報を集めている。また入居後も電話により情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室に戻られる方、ソファで過ごされる方などその方がゆっくり過ごされるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があった場合迅速に家族に報告・相談を行いプランの変更へと繋げている。	家族には、なるべく来訪していただき玄関で面談の上で説明し同意を得て交付している。半年毎にカンファレンスを開催し、見直しなども柔軟におこなっている。本人や家族の意向を踏まえ、本人の楽しみや役割を検討し目標設定した本人本位の介護計画書になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランに沿ったケアを日々行い、気づきに関しては職員間で情報の交換を行い状態に合ったケアの変更を行いプランの見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族のニーズに対してはその都度柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍の中外出支援が困難な状況が続いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関以外の往診、受診も本人希望があれば対応している。かかりつけ医の往診も月2回依頼している。</p>	<p>ほとんどの利用者が協力医療機関が主治医であるが、本人や家族が希望する医療機関の方もおられ入居時に意思確認をした上で決定している。定期受診は、職員が付き添いをおこない、受診の結果は家族に報告している。訪問歯科、薬剤師などの連携が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態に変化があった場合かかりつけ医へ報告・相談を行い適切に対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>コロナ禍の中面会出来ない状況が続いている為連携室との連絡により情報を得ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時看取りに関する指針を説明し、同意書を頂いている。看取りとなられた時は主治医から家族へ説明して頂き、以降は連絡を密に行い適切な支援を行っている。</p>	<p>事業所は看取りの経験が多く、契約時に、「看取りに関する指針」や「医療連携体制同意書」にて説明と同意を頂戴し、「急変時や終末期における医療等に関する意思確認書」にて重度化や看取りの意思確認を文書で取り交わしている。医療についての研修は年1回実施されている。また、マニュアルや介護方法などは、職員がいつでもタブレットで閲覧ができるようシステム化されている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時・事故発生時・意識消失時のマニュアルを作成し、タブレットへ入力し職員はいつでも確認できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災対策委員会でマニュアル作成し、備蓄品や防火設備の点検も定期的に行っている。日中・夜間想定での防災訓練も行っている。</p>	<p>コロナ禍で消防署の立ち合いができていないが、年2回避難訓練を実施し、訓練後は、消防署に報告して指導や助言を受けている。毎月、防災対策委員会を開催し自主訓練も実施している。備蓄は、法人で一括管理されオール電化である。法人職員の協力体制があり、役割分担を確認し連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の発するサインを見逃さないよう努めている。朝礼時には接遇目標を唱和し意識付けを行っている。	法人の接遇委員会が、年1回開催され、接遇目標を掲げて、朝礼後に唱和し失礼な言葉使いや対応をしないよう意識づけをおこなっている。また、職員は、個人の目標を設定し尊厳を損なわないよう取り組むなど事業所の意識の高さが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々声掛けを行い傾聴に努めている。思いの伝えられない入居者には表情などで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて生活して頂けるよう声掛けを行い、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時・外出時は洗面台の前で身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の中一緒に準備・片付けは控えている。食事は職員も同じテーブルで会話を楽しみながら行っている。	野菜の下ごしらえやおやつ作りへの参加があり、菜園のサツマイモの収穫をしたり、誕生会や敬老会を皆でお祝いしている。また、食事形態を工夫して誤嚥を予防し、職員と一緒に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取チェック表を作成している。一人ひとりの必要な水分量を計算し目標として提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後すぐに口腔ケアの声掛けと誘導を行っている。義歯洗浄や舌洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄のパターンの把握に努めている。また尿意・便意のない入居者へは定期的な誘導を行っている。	ポータブルトイレは、夜間のみ使用しており、おむつの方はおられず全員リハビリパンツを着けている。排泄チェック表を把握して排泄のリズムを掴みトイレ誘導しておむつへの排泄が減らせるよう取り組んでいるが、人工肛門の方には、特に配慮を欠かさないう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、野菜の多い食事の提供を心掛けている。消化不良の続く入居者にはブレンダー食を提供し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に2回の入浴もしくはシャワー浴を行っている。入浴の断りがあれば誘導の職員を変えたり翌日対応など無理のない対応を行っている。	浴室は、ユニットバスであるが、身体状況によっては、有料老人ホームの特浴を利用することもできる。また、ボントン湯、みかん湯、入浴剤などを楽しむことができる。冬場は、保湿剤を塗布したり水分補給に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿って午睡を促したり、ソファ上で足の挙上を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればタブレットに入力し職員への周知を行っている。服薬・配薬チェック表を作成し確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜をたくさん頂いた時の下準備を若い時の話をしながら楽しんだり、併設施設と合同の企画に参加し楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中外出が困難な状態が続いているが、施設内外へ散歩に出掛けた。天気の良い日は屋外で昼食を摂ったりお茶会と称して手作りおやつを食べることが入居者の楽しみとなっている。	天候や利用者の希望や体調を確認しながら、少人数でドライブを楽しむ機会が毎月ある。高齢化や身体機能の低下などのため無理をせず車窓から景色を眺めるなどしてドライブを楽しんでいる。新型コロナウイルス感染症の拡大以前は、季節の花見の時期によく外出を計画していたが今は自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族からの預かり金を個別に管理し、本人様の希望があればその都度1階コンビニエンスストアへ同行し買い物の支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様の希望があればその都度対応している。家族へもいつでも気軽に連絡して頂けるよう声掛けを行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合わせた壁飾りを入居者と一緒に作成し飾り付けを行っている。本人様の愛用の品の持ち込みもある。</p>	<p>フロアや廊下に季節ごとの装飾が施され、毎月利用者と職員がアイデアを出して一緒に作品を作成し掲示している。採光のある明るい共有スペースであり、テレビやソファが適所に配置され利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。換気や消毒を定時に実施、空気清浄機を活用している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う入居者同士ソファでゆっくり過ごされたり、ひとりで過ごされたい時の為ソファを各所に設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人様愛用の品の持ち込みもあり、本人様の動きに合わせてレイアウトを職員と一緒にしている。</p>	<p>居室は、本人の身体の動きに合わせて物の配置を職員と一緒に検討しており、居室入口には常夜灯のスイッチがある。羽毛布団、冷蔵庫などの馴染みの物を持ち込み、乾燥予防のためバスタオルを吊るしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>残存機能を活かした介助を行うよう職員全員心掛けている。夜間のトイレ周辺の電気は付けたままにし安心・安全に努めている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない